

じねんりゅう

自然流の会とは

2008年12月1日より法令改正により、非特定営利活動法人(NPO)に一般社団法人と一般財団法人という事業を公益、非公益を問わず法人格が取得できる制度が加わりました。元々営利を目的とせず、会員相互の発展とそれを通じて社会貢献を果たすという地域工務店の活動規範に則った制度でありながら、行政庁による監督がなく、自主性や自立性と透明性を確保できるこの制度を採用することになりました。

家づくりを「いのち」「平和」「自然」という見地から捉え、地域社会、人類、世界に貢献していくという理念をもった「地域工務店の会」が自然流の会です。

一般社団法人自然流の会が4月13日、岐阜県高山市に設立されました。その記念すべき初刊がこの号となります。

まだ残雪があちこちに見られる高山駅に降り立ったのが3月の下旬、すぐに太陽の家の館長大下さんと一緒に法務局や公証人役場を訪ね、一般社団法人の手続の確認を聞きに回ったところ、昨年の12月1日に発効した新しい公益法人の事例だけに、管内で二件目ということで、事例が少なく、法務局の担当者も法律書と首っ引きで、ご教授いただくことになりました。

一応の段取りを終わって、後を大下さんをお願いして高山を後にしました。登記はその後二週間で完了。その間、発起人の皆様には印鑑を頂いたり印鑑証明、謄本を頂いたり大変お世話になりました。何度もやり直し、随分と手間取りましたが、これもスタート時のいい思い出になるでしょう。

今回、事務局長という大役を頂きました。それは、暇でマメで事務処理経験が豊富だと思われたからだろうと受け止めておりますが、言うまでもなくこのプロジェクトは関わる全ての人が「わがコト」として、参加頂けるかどうか成否を決すると思っております。

全員、初心を忘れず、「夢を形に」に向けて頑張ります。

(理事・事務局長 太田 憲秀 記)

編集後記



自然流の会 発起人会 (2008/12/12 虎ノ門パストラルにて)

長らくの会社生活を卒業し、これからは理念や考え方が自分に共鳴できることに自分の経験やノウハウがお役にたてればと考えている時に「自然流」に出会う機会に恵まれました。この素晴らしい自然流のコンセプトが日本中いや世界中をリードして、「天然素材による100年生き続ける健康な家」がどんどん普及して欲しいと思います。それが出来ればエコロジーな環境実現にも近づくことにもなります。「先ず一步、それから続ける努力」を大切にして進めていきたいと考えております。

(自然流の会 事務局 森 保良 記)

本店・支部所在地

■本店：〒506-2251

岐阜県高山市丹生川町大字旗針字月出し 249 の 5
自然の郷「太陽の家」内 大下宣夫館長

■神奈川支部：〒246-0034

横浜市瀬谷区南瀬谷二丁目 2 番地 20
株式会社小林住宅工業内

☆電話：(045) 303-1230 ☆Fax (045) 303-1435

■東京支部：〒150-0001

東京都渋谷区神宮前一丁目 14 番 14 号
有限会社槐建築設計事務所内

☆電話：(03) 3470-0095 ☆Fax：(03) 3470-6036

■埼玉支部：〒337-0033

埼玉県さいたま市見沼区大字御蔵 797 番地の 2
株式会社こもだ建総内

☆電話：(048) 684-8888 ☆Fax：(048) 684-7650

運営事務局

一般社団法人自然流の会 事務局

〒236-0058

神奈川県横浜市金沢区能見台東 8 番 A508 号

■Tel：(045) 783-6020

■Fax：(045) 783-6020

■Mail：jinenryu@goo.jp

■URL：現在制作中です。

■Blog：http://blog.goo.ne.jp/shsclub-yokohama/



発刊元：一般社団法人自然流の会 事務局

神奈川県横浜市金沢区能見台東 8 番 A508 号 電話：045-783-6020 FAX：045-783-6020

e-mail：jinenryu@goo.jp BLOG：http://blog.goo.ne.jp/shsclub-yokohama/

一般社団法人 自然流の会

自然のこころ

じねん

Society of Natural Way of Life



SHS
(生命)を慈しみ
(平和)を祈り
(自然)を愛し
経営を楽しむ会

目次

一般社団法人自然流の会のスタートにあたって……1
自然流の会 2009年四つの取り組み……………1
部会・委員会よりご挨拶……………2
自然流の家づくり 他……………3
加盟店講習会 他……………4
加盟店「健康セミナー」他……………5
自然流を考える……………6
編集後記……………7

一般社団法人自然流の会のスタートにあたって



一般社団法人自然流の会
代表理事
株式会社小林住宅工業
代表取締役
小林 康雄

この度、NPO法人、SHS友の会がより発展的に解散されて、一般社団法人「自然流の会」が4月13日日出度く高山の法務局において設立登記がされました。心よりお祝いを申し上げます。いよいよ活動を開始する時がやってきました。私はこれを「先義後利」といい聞かせております。先に義をなし利は後に、そんな家づくりを実践するグループ創りを目指します。

「自然流健康の家」創りは「循環型社会の実現」「環境保全に貢献」「住む人の暮らしを守り命を癒す」「自然素材、天然素材で本物の家づくり」を目指します。化学物質万能の世の中において、自然素材のみでの家づくりへの挑戦です。正に現代社会において歯車を逆に回すような困難さを伴う家づくりではありますが、勇気を持ってその事業実現に向かって挑戦してまいります。

乱世の真っ只中にある今日において、正義とは何かを真面目に議論することさえ虚しくなるような世相であります。政界も政治家のための政治のような空気が日々漂ってまいります。目先の政争に明け暮れ、日本国の未来、国民の将来

徳は孤ならず、必ず隣あり

「論語 里仁」より

はどうなるのか。巨額の負債が益々増加し、何も知らされていない国民の背中にずしりと重く大きな負債のしかかってくる。産業界は毎日のように企業の不正が暴かれていきます。有象無象はともかくあそこまでもが、このような日本を代表する一流とされていた企業までもが国民を欺きます。日本全土からは恐怖に近い悲鳴が聞こえてくるようであります。

その様な中でもさりと光る企業も沢山存在するはずですが、その様な企業は埋もれて中々表には現れてまいりません。しかしながら「徳は孤ならず、必ず隣あり」といいます。必ずや「正義は勝つ」事を信じて行動したいと願っております。すでに実践的な講座であります「模型作成講座」の三回コースも、第一ステージを終了させて頂きました。講師や役員の方、参加者の皆様方に感謝申し上げます。

今後とも一般社団法人「自然流の会」が正義を拠り所として活動を発展的に継続できますように皆様の暖かい、ご理解あるご支援を期待して発足のご挨拶とさせていただきます。

平成21年6月吉日

自然流の会 2009 年 4 つの取り組み

私たちは2009年をチャンスの年と位置づけ、5社が一致団結して新たな挑戦に臨むことにしました。

1

長期優良住宅認定

自然流の家づくりは十数年前より「長期優良住宅」対応。今回、顧客対応強化の一環で国土交通省の「長期優良住宅認定基準」が制定され、助成金が付きましたが、その認定を取るプロジェクトを推進させました。規模、耐久性、耐震性、維持管理、住宅履歴等々の基準は顧客志向、自然志向の当会理念と合致するもの。よりよい家づくりに邁進します。



2

顧客安心制度の不可

私たちは自分達の責務は自分達で果たすという原則を持っています。従って、法定制度に加えオリジナルの安心安全制度を設定して、お客様に負担を強いることなく、家づくりに関わっていただくようにしております。

1. 瑕疵担保制度
2. 住宅完成支援制度
3. 完工後室内環境測定制度
4. 構造材の産地証明制度
5. 家歴書制度



3

セミナー営業ノウハウ



人と環境にやさしい家づくりセミナーを個々の加盟店単位で開催して参ります。お互いのノウハウを持ち寄り、会員相互の習熟度を上げ、顧客動員力を高め成約率のアップを図ります。先ず、やること、やり続けることが成功のポイント。自然流のセミナーはお陰さまで何処も満員の盛況です。

4

ユビキタス対応HP

何処からでもインターネットに繋がる社会の到来を肌で感じられている方も多いと思います。今や固定型のPCよりも移動通信体である携帯電話の優位性が認められ、それを営業ツールに使うことが成功の鍵と言われる時代になりました。自然流では携帯電話を視野に入れたホームページの活用を戦略的に展開して参ります。



有限会社
槐建築設計事務所
代表取締役
柳澤 泰博

安全で安心できる住い造りの「設計企画室」として、『自然流健康の家』の基準・規範を念頭に、設計と施工の実働においてその内容をしっかり見守り、技術的なバックアップをすること日々臨んでまいります。

設計企画室 設計・施工委員会



株式会社エコログ
代表取締役
太田 憲秀

新築の成約を果たすための販促プランとしてセミナー営業と携帯ホームページを視野に入れた攻撃型の情報システムの構築を行います。また、自然流プロジェクトに関わる企業の商材やサービスを横断的に捉えたキャンペーンを行い、グループの団結を図ります。共存共栄の実践こそがグループ発展のキーポイントと考えています。

販促・企画委員会



株式会社マツナガ
会長
松永 末男

時代の変革と共に、人が本当に求めている家づくりの形が変わって来ました。正に自然と人の共生という本来の家づくりのあり方を追求する当会の時代。私たちは今求められている本物の家づくりを推進・サポート致します。自然流の家（商標登録）“ブランド”の家づくりに貴社のご参加をお勧めします。

入会・育成委員会

自然流の会会員工務店



埼玉県
こもだ建総
www.komodakensou.co.jp



神奈川県
厚木市
成光ホーム
046-246-2320



神奈川県
小林住宅工業
www.kobajyu.co.jp

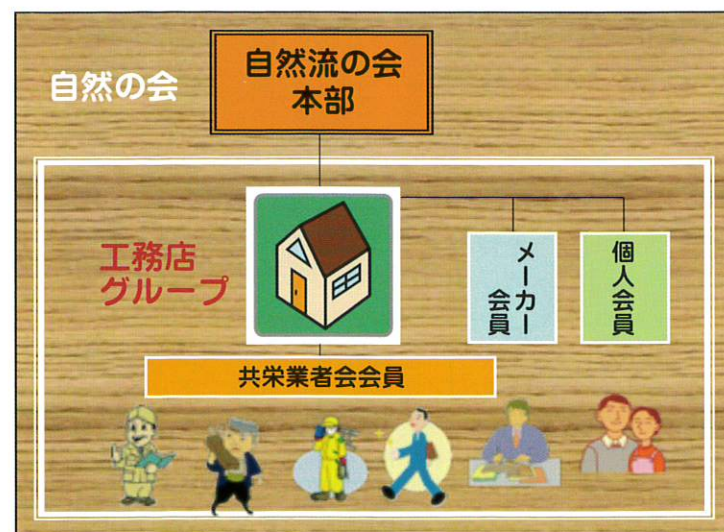


神奈川県
横浜市戸塚区
秋山工務店
045-355-5860



神奈川県
ハウスニュームラ
www.house-newmura.jp

自然流の会は工法の会ではありません。理念と経営の会です。



※詳細は事務局（045）783-6020 へお問合せ下さい。

自然流の会は「自然流」という理念に賛同し、協力・尽力を惜しまない方々の参加で成り立っています。加盟工務店はもとより、工務店を軸に自然流の家づくりに携わる共栄業者会の会員の皆様、そしてその会員へ商材や建材、サービスを提供するメーカー、そしてこの家づくりに賛同して、個人的に応援をいただける皆様方です。

自然流の会が公益法人として出発した所以は運営団体である会に不必要な利益を求めず、社会、加盟店、共栄業者会、メーカーの皆様方と協働で運営し、活動の成果として相応の利潤が生れるという環境づくりの為です。私たちは先ず「理念」ありきです。この理念に賛同し、社会に役立つ企業になる為に自らが主体性を持って参加していただくこと。それが当会会員の入会資格です。



建築構造偽装に端を発した改正建築三法（建築基準法改正・建築士法改正・瑕疵担保履行法）の施行を中心に、このところ住宅建設をめぐる政府の対応も次々と実施法を推進し、いよいよ6月4日からは『長期優良住宅の普及の促進に関する法律』が施行されます。その内容についてはいまひとつ詳らかではありませんが、簡単に言えば政府もやっと「長く住める住宅を造ろう！」と言いはじめたというところでしょうか。しかしその内容は、すでに十年も前から私どもが実践して建て、唱えてきた『自然流（じねんりゅう）の家づくり』の内容にそっくりなのです。

本来よい住宅とは、社会情勢などには翻弄されない人々が安心して安全に暮らして行くための基本的な施設です。そのためには住宅はどうあるべきか？ということを中心に立ち返って考え、試行錯誤のうちに自ずと出てきた結論が「自然流（じねんりゅう）の家」なのです。人々が安心して安全に暮らし、人にやさしく、心地よく、愛着を持って長く暮らせ、尚且つ現代基準の性能を兼ね備える住宅でなければなりません。そのためには、ただ単に住宅を自然素材だけで建てるというだけでは足りません。そこで、次回からはその「自然流（じねんりゅう）の家」の設計手法

についてコラム形式で順次掲載していきたいと思います。その一端として、

- 1) 心地よい家を作るには
- 2) 安心安全な住宅にするには
- 3) 長く住める家とは
- 4) 現代の住宅性能について
- 5) 住宅に使える材料

などのテーマを中心にお伝えしていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

（一級建築士 柳澤 泰博）



ユーザー訪問：裸足の王様「自然流の家」を語る

事務局編集
横浜市 I 様

理想は幼い時育った新潟の家だった。

初めてマイホームを建てたのは昭和四十一年の春でした。勿論、最新の材料（新建材、石化製品）を使い、最新の建築方法（防腐剤、接着剤、防蟻剤在り）で家人一人一人が部屋を持てる自慢の家でしたが、身体は正直です。家族の中に原因が判らないアレルギーが発症したのです。直感的にこれは建材が薬剤が原因だと判りました。



私はほんの短い期間でしたが、新潟の山深いところで育ちました。そこは冬には一階が雪で埋もれ二階から出入りするほどで、おおよそ築 350 年ぐらいいは経った木造茅葺屋根の家でした。いつも大黒柱を背にした囲炉裏端には誰かがいて、学校から帰ると真っ先にその場所に行き、その日の出来事を話すことが日課で、時には◎の多いテストの時はおやつ（囲炉裏の灰の中からホカホカの焼き芋が出てきます）がもらえることもありました。そこは、冬は暖かく夏は涼しいその家の中で一番居心地が良くいつも人の集まってくる場所「居間」でした。



社会人となって、都会暮らしが、続き、家は新建材を使った外見の良さを最優先し、合理的なレイアウトを持った家に慣らされていましたが、きっと、この頃から都会の住いは人が暮らすために快適な様に作り建てられたのが、最新の技術と云う文句に満足し住まされているのではないかと、という疑問を身体はどこかで感じ始めていました。きっと自然素材のよさを多く取り入れて造られた家に安らぎを潜在的に求めていたことだったのです。

平成 17 年 6 月の下旬、匠の会のシートが張られた焼き土台に檜の柱が建った建築が始まったばかりの家を偶然見学、その後八月下旬までほぼ毎週完成までの間三ヶ月余見

学を続けました。行く度に住む人の気持ちで鋸を鉋を魔法の杖の様に使い材木から家に代わっていくのには感激。ほぼ完成したと大工さんに言われ、居間を見せていただいた時は、きっとここに住む人はこの木の香り包まれ、自然のものを使った人だけが味わえる幸運なひとりで、これからずっと気持ちの良い居間で昼寝ができるのだらうと考えると、私もその一人になりたいと思いました。



思いのありったけをぶつけた

太陽が燦々と入り、風がさわさわと通り、春夏秋冬いつも心が癒される居間のある家。その後、天井は鈍く黒かりした重い日本瓦を乗せた屋根を支える木組みが力強く立ち美しい姿を板で隠さず天井を貼ることはしたくない。天井を屋根裏から表に引っ張り出し生かしたい。家と住む人の身体や精神の健康をいつも見ている大黒柱を建てたいと自分のありったけをぶつけました。

平成 18 年 8 月完成。

居間の大黒柱の前で家の引渡し。夏というのに気持ちのいい涼しい風が吹き抜けていきます。エアコンを使わずこんなに涼しい夏を過ごしたのは何十年ぶりだろうか？

冬は冬で外がどんなに寒くても部屋に入るとすぐに靴下を脱いでしまう。赤松の無垢板床が足裏にやさしく、暖かいのだ。昼間など軽い服装で床に寝転がっても気持ちのいいことは筆舌に尽くし難い。暖房はと言うと何処かで一台がかすかに動いている気配がする。今年は風邪も引かず越せれたのは無垢材から発せられる木の精が身体に取り込まれるからかも知れません。「自然流の家」は身体に精気が蘇ります。



第1回

加盟店講習会



いよいよ動き出した「一般社団法人自然流の会」。その第一回加盟店講習会が開かれた。加盟店5社より代表にでいただき、冒頭小林代表理事の理念編と実務講座の自然流の標準仕様断熱「セルローズファイバー材」とその工法「スーパーZ工法」について勉強した。実はこの断熱分野は工務店の最も感度が低い分野ということで、機密性が高い現代住宅の造り手として由々しき問題だ。古くは断熱材など存在しなかった訳で、その流れから工務店では一番不得手な分野であり、出来ればあまり関わりたくない分野。だから、お客様から或いは設計事務所から指定してもらえない限り、工務店からの指定など、昔は皆無だったと言われて、出席の工務店の皆さんも苦笑をされていた。セルローズファイバーを使わない理由は知識不足と高価であり、利益が取れない為だと言うことだった。しかし、セルローズという木と同じ成分で出来ている断熱材のよさが分かって来て、今回、それを使用する必然を感じられたようだ。ところで、問題は施工方法だ。どんな技術レベルで工事を行うかの問題だそうだ。

住宅断熱工事のあり方 自然流建築の標準仕様断熱-セルローズファイバー

完全に遮断できる断熱材は皆無であり、10%の隙間が生まれただけでも断熱材が持つ本来の能力の78%をロスするという実験データがでているということで、施工の精度がポイントとのこと。マツナガが責任施工スーパーZ工法を主張するのはそれが理由だ。

講義では数々の実験データが開示された



これが原料のセルローズファイバー



60kgの高压で壁と壁の間に吹き込み



耐火実験をデモで実施



グラスウールは黒こげだがセルローズは延焼せず

第1期

自然流学院

夢をかたちに 自然流グループの営業ノウハウを造る



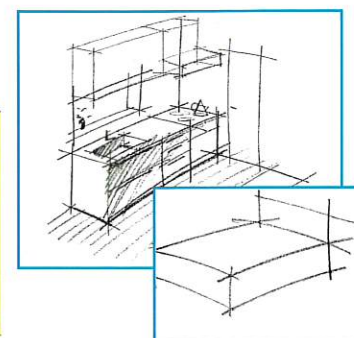
第1期講座「模型制作」指導 スペースデザイン建築設計室 代表 岡野 勇



今回は業界におられる方々が大半で、実務で活用できるように勉強したいということであった。営業の現場に居て、お客様とのコミュニケーションを円滑の図るための一つのツールとして夢を形にできる模型はお客様の琴線に触れるものではないでしょうか。



第2期講座「客前スケッチ」指導 デザイン・ハセノリ 代表 長谷川 矩祥



誰でも自分の思い描いていることを絵に出来たり図面にしたりすることが出来ればもっとコミュニケーションが図れると思っている。この講座は建築という場で、考えたり伝えたいことを簡単に表現できるスケッチ技法を学ぶ教室である。キャンバスは紙であり、時にはダンボールであり、地面である。一本の線が作る納得の造形がそこにある。



先着申込 20 名様まで

第1日目 5月14日(木)午後12:30~15:00
第2日目 5月28日(木)午後12:30~15:00
第3日目 6月 5日(木)午後12:30~15:00
会場:横浜駅前 かながわ県民センター

第2期講座の開催スケジュール

Report from Jinenryu 加盟店「健康セミナー」

自然流の会へ所属する工務店では毎月定期的にユーザーセミナーを行っている。お客様と顔を合わせ直接会話を交わすことができる絶好の機会である。今すぐ家を建てたい人、すぐではないが、・・・何処に頼むか迷っている等々様々なスタンスのお客様が集まる。今回は会の中心であるこもだ、小林の両工務店の定期セミナーを覗いて見た。

第89回

こもだ建総

施主と本音を語る座談会

一施主が夢を託せる工務店とは……？！



午前中は木の話、こもだの家づくりのコンセプトや実際にこもだで家をおつくりになった施主様二名をお招きし、家づくりの実体験と、実体験を経て得られた家づくりのポイントやQ&Aの形でお聞きした。実際に体験した方々のお話に一生懸命メモを取る姿も。

午後はこの日お話を伺った施主様が実際に建てられ住まわれているお宅を拝見。無垢材の美しい木目と漆喰ながら南欧風の雰囲気を持った壁とのマッチングは建物の個性を際立たせ、住まう人の感性が心に残る作品(?)であった。



2009年
4月度

小林住宅工業

産地認証構造材……紀州山長商店

一 植林からプレカットまで、一貫作業の老舗



年間を通し、家づくりで造り手が訴えたいテーマを設定。今月は自然流で家を建てる人の最大関心事の一つである構造材がテーマ。供給会社の山長商店真鍋氏の専門的でありながらわかり易い説明に一心に聞き入り、質問で時間をオーバーするフィーバーぶり。



工事現場では建物の骨組みや間取りを見学。施主様訪問では既に5年の歳月を自然流と共に暮らされている石田さんを訪問。自慢の大黒柱の裏話をお聞かせいただいた。勤めから戻ると先ず靴下を脱ぎ裸足になって床板と会話をするとそれが楽しみだそう。

自然流本部 自然の郷(さと)「太陽の家」から

館長 大下 宣夫

春の花が一斉に

高地の春は五月。自然の郷 太陽の家はこのGW春真っ盛りを迎えました。早朝。四時過ぎになると周りが薄明くなり一斉に小鳥が囀り始め、耳を澄ますと近くを流れる小川のせせらぎが聞こえてきます。都会の方々には誠に羨ましい世界が展開されています。

今年は高速道路の料金改定により下の国道を走る車の数が多いそうです。都会から沢山の方々を訪れていただくのも結構ですが、是非ゆっくりと腰を落ち着けて本当の高山を味わって頂きたいと思っております。

毎年、夏に皆様にご愛顧を頂いておりますミニトマト「あいこ」も順調に育っております。初夏からの出荷となりますが、是非皆様にも味わっていただきたいと思っております。

この月末には小林住宅の協力業社会「翠光会」の皆さんがお出でになります。また、夏には幾つかの団体の訪問もあるやに聞いております。地の味、地のマナーで皆様をお迎えいたします。



遠景に観る太陽の家。
道端には花が咲く



小林住宅工業
佐藤 周平

自然流大工魂

山形から新天地を求めて小林住宅の門を叩いての入社でした。高校を卒業し、大工の職を選びこの道に入りました。元々モノづくりが好きで、この道に入ったのですが、もっと厳しい環境で大工の修行をしたいと思い、インターネットで見た小林住宅の門を叩きました。小林社長の面接で「自然流」という考えに感動し、自分の成長する方向性を見つけていくことが出来ました。家づくりは「健康づくり」「幸せづくり」という考え方を理念に据え建築される自然流健康の家はまず、造る人、即ち大工本人が健康な身体を持ち、健康なところを持っているかどうかが問われると思っています。建築現場には施主様の夢と期待が凝縮されています。従って、それを形にする大工には感性と、いいものを造ろうという情熱が必要です。現場で施主様とお話をするとそのことがひしひしと伝わってきます。大工にとっても一生残る作品であり、自分の足跡であり、悔いの残るものは作りたくありません。従って、いいと思うことはどしどし提案して、一緒にベストなモノを造る、その気持ちは結果的に住まう人にも環境にも地球にもいいと言う自然流の家づくりに通じるものと考えています。まだまだ大工としてのキャリアは不十分ですが、これからは人間的な成長も心がけ、将来的には自分で自分の家を造ること。そして独立し一人前の建築人として会社を持つこと。そうですねー小林住宅が目標です。

一般社団法人自然流の会のスタートにあたって



一般社団法人自然流の会
代表理事
株式会社こもだ建総
代表取締役
菰田 勇司

今、業界もユーザーも法の名の下にその身をガングリメに縛られ、自分の住宅を建てられなくなりつつあります。一方で、耐久性があり、安心安全で健康によい住宅をすべての国民が願望しております。

日本民族は三千年以上にわたりその生命を犠牲にして、天災人災の数々を受難して来ました。そして、その結果、木造軸組工法が滅亡する(!?)ことになってしまいました。

それは「法」を私物化した利権の仕業以外の何ものでもありません。国民は、法が決定されればそれを守る以外にないのです。つまり、長持ちする建造物よりも短命な建築物のほうが業者(建売不動産屋)には仕事が増え、経済的に潤うからということです。まして、耐久性のない不健康な住宅が病害の要因に関与し、病院や薬物がもてはやされて大繁盛する実情が、経済の証として評価される現状において、あり得ない事実が存在する世の中であることを暗示しています。

法とは、国民が守るべきものですが、時にして経済優先によるとか、リーダーの思い入れが悪徳化する場合があることを知らねばなりません。次々に法令化され、新しい建築基準法が発令される。例えば、その発令に至る論理やその骨子の提出は何処で誰がどのように成したかを、国民は知らされていません。一生に一度あるかどうか天災への恐怖を鞭にして発令の正当性を論じるが、アトピーや喘息は増加する一方で、まして新型の結核のような過去に予想することができない病害が現れる現実があります。角度を変えて見ると、耐久性を上げることで、果たして基準法に基づく建築物が延命したという事実はありません。むしろ短命化しているのではないのでしょうか。あるリーダーの思いつきを省が利用して、国民に提示し、今までの建築業者を悪者にして、テレビ、新聞、マスコミによって宣伝される強度、

自然流を考える 一よい家は人を長生きさせる一

資材、薬物等のデータは全て新建材による建築物のものであり、耐震にしてもデータを取るために造った建物の耐震であり強度です。つまり資料のために作った実験棟のような建物をゆすってみても倒壊する筈はないのであり、現実には当てはまらないということです。

又、ユーザーの公的融資枠を増すために、何々の資材、部品を使用していけばとか、真の科学的根拠の開示も無く、融資をアメにした条件を国民はただただそれを信じるよう強要されるのみです。日本建築は、できるだけ長持ちさせ、最終的に土に還る、これこそが日本住宅の基本です。自然流(じねんりゅう)は「よい家は人を長生きさせる」ことが基本理念です。朽ちるという摂理は万物に共通するもの。梅雨時に見られる高温高湿の気象条件は、物の腐朽、特に木材において顕著であることも事実です。建築物の腐朽がこの温度と湿度に関係するため最低日本風土の地域差を考えることも重要です。その重要性は歴史的物象と歳月が証明しています。

自然流にはここ十年を起点として、これらの歴史的事実と門答し施工例で証明できるものが数多くあります。自然流の家の思想根とは地球上で私たち人間は口や鼻だけでなく、全身の皮膚からも呼吸していることで、これはすでに医学的にも実証されています。人間だけでなく、草や木、石や土に至るまで、地球上の物体はすべて呼吸を自然的にしています。これを阻止することはすなわち死滅を意味します。自然流は豊かな環境での住まいづくりを目指すことを強力に推進して参ります。

平成 21 年 6 月吉日

夢をかたちに

私たちに家づくりを託された皆様の夢を育み、夢を形に、そしてご一家に健康と幸せをお届けすること。健康に不安が生じる化学建材を一切使用しない自然共生住宅が私たちのスタンダード(常識)です。

自然流の会

